

国内マグネシウム 2022 年需要実績／2023 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

(単位：トン)

分類\年	2018	2019	2020	2021	2022	22/21 比	2023 予測	23/22 比 予測
ダイカスト	5,200	5,100	4,700	5,200	4,900	94.2%	4,800	98.0%
鋳物	130	190	100	100	100	100.0%	100	100.0%
射出成形	960	1,200	960	1,000	1,000	100.0%	1,100	110.0%
展伸材	800	800	700	800	700	87.5%	700	100.0%
その他合金	400	300	200	200	100	50.0%	100	100.0%
構造材小計	7,490	7,590	6,660	7,300	6,800	93.2%	6,800	100.0%
アルミ合金添加	17,100	17,000	14,500	16,500	15,000	90.9%	15,000	100.0%
鉄鋼脱硫	4,000	4,140	3,000	3,500	3,400	97.1%	3,400	100.0%
ノジュラー鋳鉄	2,700	2,700	2,520	2,500	2,600	104.0%	2,600	100.0%
チタン製錬	700	1,010	1,000	440	725	164.8%	800	110.3%
化学・触媒	1,800	1,500	1,350	1,300	1,500	115.4%	1,500	100.0%
添加材小計	26,300	26,350	22,370	24,240	23,225	95.8%	23,300	100.3%
防食その他	1,100	925	1,000	1,230	1,150	93.5%	1,200	104.3%
内需小計	34,890	34,865	30,030	32,770	31,175	95.1%	31,300	100.4%
輸出	258	225	102	140	490	350.0%	490	100.0%
総需要	35,148	35,090	30,132	32,910	31,665	96.2%	31,790	100.4%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。

<2022 年の需要実績>

- ①2022 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けのマグネシウム合金需要量が前年比 6.8%減の 6,800 トン、添加材向けの純マグネシウム需要量が同 4.2%減の 23,225 トン、防食その他向けが同 6.5%減の 1,150 トン、輸出が同 250.0%増の 490 トンとなり、全体では同 3.8%減の 31,665 トンとなった。2022 年の前半は、マグネシウム地金の価格高騰が続き、また世界情勢や円安、半導体不足の影響により、金属材料の主要な需要先である自動車分野の回復が遅れていることもあり、全体的に厳しい需要の推移となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けの需要は、自動車分野の回復が遅れていることや、材料価格の高騰が続いている影響により回復基調とはならず、主要なダイカスト部門が前年比 5.8%減の 4,900 トンとなった。鋳物部門と射出成形部門は安定的な推移となったが、展伸材部門は 12.5%減の 700 トン、その他合金は 50.0%減の 100 トンとなり、全体では前年から 500 トン減少の 6,800 トンとなった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けも、自動車分野を中心に各需要先で厳しい状況が続いており、最大の需要先であるアルミ合金添加部門が前年比 9.1%減の 15,000 トン、鉄鋼脱硫部門が同 2.9%減の 3,400 トンと減少となった。ノジュラー鋳鉄部門は安定的に推移し同 4.0%増の 2,600 トン、チタン製錬部門と化学・触媒部門は前年から回復となり、それぞれ同 64.8%増の 725 トン、同 15.4%増の 1,500 トンとなった。
- ④防食その他は、防食向けの需要が約 100 トンで、これはほぼ横ばいで推移し、その他の特殊な用途における需要量が若干減少し、前年比 4.9%減の 1,150 トンとなった。
- ⑤輸出は、財務省貿易統計の純マグネシウム地金とマグネシウム合金地金の合計より算出している。

<2023 年の需要予測>

- ①構造材向けの需要は、環境対応で射出成形部門は前年比 10.0%増の成長を見込んだが、主要な自動車分野が大きく回復する見込みが低く、ダイカスト分野は前年比 2.0%減の 4,800 トン、その他は横ばいでの推移と予測し、合計も前年から横ばいとなる 6,800 トンと予測した。
- ②添加材向けも、チタン製錬部門で前年比 10.3%増を見込んだが、全体的に需要増加を見込めるような状況にはならないと見られ、その他は前年から横ばいでの推移し、合計は同 0.3%の微増となる 23,300 トンと予測した。
- ③防食その他及び輸出はほぼ横ばいでの推移と予測した。
- ④2023 年の国内マグネシウム総需要量はほぼ前年並みとなり、前年比 0.4%増の 31,790 トンと予測した。

以上